



うさみこ通信

NO.18

H21.7.21発行

6月例会報告

(2009年6月20日 松江市立湖東中学校 参加者25名)

1. 柴田久美子さんのお話をきく

「学校図書館を育てる会・しまね」の代表でいらっしゃる柴田久美子さんに、学校図書館をめぐる島根県のあゆみについてお話ししていただきました。



○“人”（司書とは限らない）の配置の歴史

- ・専門・専任・正規の司書、事務兼務、公共図書館員、スクールサポーター…など
- ・柴田さん：平成7年～ 城北小学校ボランティア

お子さんが通っていた小学校の図書館を見て驚く→「何とかしなければならない」

○学校図書館司書配置を願う運動

・みんな「司書の配置」や「読書」は良い事だと考えている→とにかく味方を増やす！！

- ・県議・市議への働きかけ→議会での質問
- ・議会で答弁する為に関係部局が学び、理解を深める
- ・行政とのパイプ役 (ex. 教育長に会いたい→パイプ役がいると会いやすい)

○数少ない配置校の実践は学校図書館活用と司書のイメージを広く示すことが出来た→現場からの声

○学校図書館に対する県や知事の意識・関心の高まり

- ・2008年の大きな動き
知事の城北小図書館視察・山陰大会への参加、「知事と語ろう学校図書館」（育てる会・しまね主催）…など
- ・学校司書等配置事業
・県内の小中学校に学校司書等（ボランティア含む）を配置する ← すべての市町村が参加
→ 市町村間の意識の差が今後の課題
- ・事業期間は5年間 ← 県は当分財政支援を続ける予定？
- ・第2次島根県子ども読書活動推進計画
- ・義務教育段階における「学校図書館活用教育」を集中的に全県展開

○現状・今後の課題

- ・小中学校図書館に配置された人＝有償ボランティアが全体の6割
(有償ボランティア制度を非難する声もあるが、地理的なこと等を考えると仕方なかった)
→ **「専門・専任・正規」**の司書の配置を求めていく
- ・教員養成課程の学生に、学校図書館教育を ← 県教委に申し入れをしてもいいかも？
- ・県教育委員会に、学校図書館を担当する部署（「室」あるいは「課」）の設置 ← 片手間ではだめ！

○現場ではひとり職種だが、このように仲間が増えたので、これを力とする

2. モノ作りワークショップ

しおりや切り紙など、図書館でできるちょっとしたモノ作りを体験しました。

「何を作る？」「どうやって？」…それぞれ苦戦しながら、色紙やマスキングテープ、クラフトパンチ

実践が
次の時代をつくる

ボランティアでいいのでは？
という流れを止めたい

などを使い、かわいらしいグッズを作りました。

今回の例会では、モノ作りに十分な時間は割けませんでした。7月例会でも引き続き北海道大会の準備として、モノ作りをします。

会場校紹介～湖東中学校は、こんな所でした！



湖東中では、もともと2階のオープンスペースに図書を置いていたのですが、図書管理の都合上、施錠ができる視聴覚室を図書館として使うことにしたそうです。すべての図書を視聴覚室に置くことはできないため、読み物は視聴覚室に、参考図書などはオープンスペースに置いてあります。



視聴覚室の名残で、隣は放送室。



普通の教室ほどの広さですが、多い時には100人の生徒が来館するそうです！

以前は昼休み以外は施錠されていましたが、今では嘉藤さんが常駐しているため、「生きた図書館」に生まれ変わりつつあります。



例会を終えて・・・

嘉藤幸介

先日は湖東中学校に来校していただき、ありがとうございました。本校図書館はいかがでしたか？改善すべき点多々あると思います。他校の実践を参考に、少しでも早く「図書館」をつかっていきたいと思っています。そのためにも先生方と緊密に連携し、交渉すべき点は交渉していきたいと考えています。少しずつでも、確実に前進していきたいですね。

嘉藤さん、ありがとうございました！

8月例会について(予告)

8月例会は、8月29日(土)9:30~12:00 出雲高校で開催します。

予告しておりました西部での例会は、予定を変更して10月に行う予定です。

6月6日に行われた学図研・山陰ブロック集会について、須山さんがレポートしてくださいました！↓

とても有意義な時間でした。

このご時世、図書館に限らずどんな仕事でも、常に自分の仕事の存在意義や世間のニーズを問い続け、ユーザーに関わっていくことが、大事なんだと、身が引き締まる思いがしたり、気負い過ぎることなく努力を続けていくことの覚悟(といったらおおげさですが)みたいなものを感じました。(須山麻美)

☆須山さん、ありがとうございました！

5月入会者

6月入会者

読んちよる

担当：藤村正枝

『鴨川ホルモー』 万城目学・著 角川書店 (2006)

『ホルモー六景』 万城目学・著 角川書店 (2007)

『夜は短し歩けよ乙女』 森見登美彦・著 角川書店 (2006)

7月7日に、本校では図書委員会主催による読書会を開きました。お題は、「あやかしの京都」。使用した本は、上記の3冊。(本校の読書会は、委員による朗読や、ちょっとしたブックトークに始まり、参加者全員による音読あり、クイズ有りといわゆる読書会とはちょっとばかりイメージが違うかも・・・)

『鴨川ホルモー』は、京大生の俺を主人公とした本編。『ホルモー六景』はそのスピンオフ作品。七月といえば京都祇園祭。その宵山行事でにぎわう京都を舞台に、主人公の所属する「京都大学青竜会」なるものの正体が、先輩より主人公たち新入部員に初めて明かされる。北の京都産業大学玄武組、南の龍谷大学フェニックス、西の立命館大学白虎隊、そして東の京大の四者でオニ語(隠語)を駆使してオニを操り、“ホルモー”という競技を闘うという。読書会では、その奇妙なオニ語の朗読で大盛り上がりでした。

『夜は短し』は、同じ京大生の「先輩」が主人公。一目惚れをした黒髪の乙女を追って、京都の町を右往左往している内に、「天狗」やら古本市の迷路やら不思議の世界をさ迷う。そしてクライマックスは大学祭へと。

三冊とも、この夏公開中の映画や舞台の原作として大いに楽しめます。

☆藤村さん、ありがとうございました！

次回例会 2009年 7月25日(土) 9:30~12:00

場所 平田高等学校図書館

内容 北海道大会準備(レイアウト&ちょこっとモノ作り)

☆☆☆**出欠**を、7月22日(水)までにお知らせ下さい！！☆☆☆

～編集長より～

来月はいよいよ北海道大会ですね！全国の学校図書館での実践例を学べるのがとても楽しみです。もちろんナイターも頑張りましょう！

編集長 梶谷妙